

安全と細やかなサービス、100食体制へ始動

ひまわり会第4回総会 明舞センター建て替えの動きも

NPOひまわり会の第4回総会が9月19日午後、「明舞ひまわり」で15名の会員が参加し、開催された。2006年度事業報告、同収支決算報告ならびに2007年度事業計画案が報告、提案され、活発な討論のうえで承認された。

当面の課題として「食堂100食体制」確立のための方策が検討されたが、ハード面では明舞センター地区全体の再整備問題を抱えている時期のため具体案を出すことは難しく、ソフト面から事務処理のための新たなシステムづくりと、食品衛生上のチェック体制、食数増加後も従来のひまわりの特色ある多彩なメニューや細やかなサービスを失わないことを確認しあった。

また、県の明舞団地の再生事業でいよいよ明舞センターの建て替え事業が始まる動きがあり、現在の「明舞ひまわり」の店舗継続の将来計画についても早晚大きな影響が出てくることも念頭に置いた経営をしなければならないことも議論された。

出席者のなかには、「昨年の総会に比べ、今年の総会の雰囲気には余裕と明るさがあった」と感想をもち、順調な事業の伸びを反映した。

食事利用者アンケートから

100食体制に入り、提供食数の増加は調理の幅が限定されることにつながり、調理スタッフの間でも最近のメニューのマンネリ化が問題になっていた。総会終了後の9月末ふれあい食堂と配食利用者へのアンケート調査を実施し、食堂来店者36名、配食利用者23名から回答を得た。

1. 利用者の年齢

年齢	40代	50	60	70	80	90
食堂	1人	3	12	11	9	
配食			3人	10	9	1

2. 家族の状況

	独居	夫婦	親子	その他
食堂	20人	11	4	1
配食	15人	7	1	

3. 食事の時間

	定時	朝抜き	時々食べない	不定
食堂	28人	1	2	5
配食	18人	1	0	4

4. 食事づくり

	自分	ヘルパー	外食	持ち帰り他
食堂	30人		1	5
配食	6人	4	3	11



5. ひまわりのメニューで好きなもの(全体)

すし(24人) てんぷら(25人) ごまあえ(28人) ひじきの炒め煮(19人)

しらあえ(20人) 揚げ豆腐(16人) 酢豚(15人) 生春巻き(14人)

メニューは定番のすし、てんぷらに人気があるほか、ごまあえ・しらあえなど伝統的なものに嗜好度が高い。また、ごはんの硬さについては弁当利用者の64%がちょうどよいと答えているものの、硬いが36%ある。塩味では56%がちょうどよい、少々辛いのが30%、少々辛いのが14%と個人差が顕著だった。配食利用者には健康状態について質問したが、ほぼ健康は2名だけで、ほとんどは複数の病院や診療科に通院、ほとんどベッドで過ごしているが4名だった。

20年遅れた明石市の食事サービス

高齢者・障がい者の食事サービス事業の展開

明石まちづくり市民塾の連続講座で「ひまわり」から提起

明石まちづくり市民塾の連続講座「福祉のまちづくりを考える パートV」の3回目の講座で8月19日午後、「明舞ひまわり」の食事サービス事業を入江一恵代表が報告し、明石の高齢者・障がい者への食事サービスが遅れている実態に警鐘を鳴らした。

明石駅前の明石市生涯学習センターで行われた講座は、50名を超える参加者で会場は超満員。まず、高槻市で17年間配食サービスの歴史をもつ特定非営利活動法人「いきいき会」代表の坂田朱美さんが、NPOによる食事サービス事業の先輩格として、高槻市の食事サービスを向上させてきた市民の先駆的な活動を紹介した。

入江さんは、明舞ひまわり設立の動機と歩んできた活動の経過を報告。明石市の高齢化と食事サービスの現状が近隣の他都市とくらべてかなり遅れており、介護予防の柱でもある栄養改善については明石市の行政として無策の状態であることを指摘した。

坂田さんには、明石市と対照的な高槻市での先駆的な取り組みに参加者から活発な質問が集中し、質問に答えて坂田さんは「明石市の食事サービス行政は20年遅れている」を率直な感想を述べた。入江さんはNPOやボランティアグループのネットワークづくりによってそれぞれの地域から行動をおこし、明石市の食事サービス行政を変革していこうと呼びかけた。



ひまわりの顔



正木佐代子さん (84歳)

いつもニコニコ、彼女の笑顔はまさに「ひまわりの顔」。お客様の人気ナンバーワン。ボランティアの間では「看板娘」の愛称がある。二度の骨折で一時はひまわりの配食利用者でもあった。お茶・食事のサービスはもちろん、食堂全体の目配り、お弁当を包む風呂敷の繕いまで自宅で夜なべしごと。まさにフェニックス(不死鳥)か。 (K・I)

山根議員が市議会で追及

明石市議会の9月定例会一般質問で9月13日、山根金造議員(新風次世代所属)が、高齢者の配食サービスについて「栄養改善を視野に入れた配食サービスの充実強化」を求めて、北口市長や福祉部長を追及した。

山根議員は、明石市の高齢者向け給食サービスは70歳以上の独り暮らしまたは虚弱高齢世帯を対象に月2回の会食サービスを中心に行っているが、昨年4月から介護保険法改正により「栄養改善」を中心とした配食サービスが求められていることを挙げ、週3回程度のNPO等に委託した配食サービスに取り組むよう、市の施策をただした。

これに対し北口市長は「だれがやるのかが問題だ。民間業者に委託して配るのがいいのか、もっと地域に根ざしたシステムが必要だが、なかなか難しい。自分で献立を考え、買い物に行き、自分で調理するのも大切なことで、それが可能な人には援助していくシステムが必要」と答えるにとどまった。山根議員は「加古川や稲美町では週1回の配食をしている。ヤクルトの訪問には1500万円も支出している。商店街の空き店舗などを利用したNPOの活動を支援するシステムを立ち上げるべきだ」と要求した。